

# 令和元年度 第1回（仮称）札幌市建設産業活性化プラン検討部会 議事概要

## 1. 開催概要

日時：令和元年8月8日(木) 14:00～16:00

場所：札幌市役所 12階 1～3号会議室

次第：

### 1 開会

2 挨拶 札幌市建設局長 小林 安樹

3 検討部会概要の説明

### 4 議事

「（仮称）札幌市建設産業活性化プランの取組について」

- ・札幌市における建設産業の役割
- ・札幌市の建設産業の現状と課題
- ・プランの基本理念、基本方針及び目標
- ・プランの施策項目

### 5 閉会

出席者・出席機関：

委員：別添「（仮称）札幌市建設産業活性化プラン検討部会委員構成」のとおり

（代理出席：（一社）北海道舗装事業協会 安田理事、（一社）建設コンサルタント協会北海道支部 松橋支部理事）

札幌市：建設局、財政局、都市局、水道局、下水道河川局

## 2. 議事概要

### (1) 開会

### (2) 挨拶（小林建設局長）

建設産業は本市を支える基盤産業の一つです。まちづくりのパートナーとして建設産業が将来にわたり健全な体制を維持していくため、現在建設産業が抱えている担い手不足、働き方改革などの課題については行政の課題でもあるものにとらえ、課題解決に向けて官民連携した取組が重要と考え、昨年度より本プランの策定に向けた検討を始めたところです。昨年度においても各団体の皆様から直接課題や現状をお聞かせいただき、アンケート調査にもご協力いただきました。

プランの検討にあたりましては、みなさまのご協力なくしては作れないものと考えております。本日の検討部会においてもみなさまのそれぞれのお立場で忌憚のない貴重なご意見ご助言を賜り、我々としてはそれを元によりよいプランを策定したいと考えております。今後ともよろしくお願いたします。

### (3) 検討部会概要の説明

- ・配布資料の確認
- ・検討委員会・検討部会スケジュール案及び第1回検討部会検討項目の説明
- ・委員会設置要綱についての説明

- ・検討部会委員紹介
- ・部会長選出：事務局より北海道大学の高野委員の推薦があり、拍手により承認。

#### (4) 議事

##### 【説明事項】

- ・プランの目的・期間（令和2年度～6年度）・対象範囲（一連の建設産業）
- ・札幌市における建設産業の役割、建設産業の現状、建設業就業者等の将来推計
- ・アンケート・意見交換会の結果、本市の建設産業の活性化にむけた課題
- ・第1回検討委員会の意見と対応の方向性について
- ・プランの課題整理と取組目標までの関係（案）
- ・プラン骨子案より第4章施策及び具体的取組

##### 【説明事項に対する意見等】

###### <下請の視点の確保について>

- ・取組目標を見ると元請に対する考え方は含まれているが、下請の視点がないのではないかという気がする。もっと下請側の課題を具体的にどのように解決していくかという施策が必要。週休2日制についても、下請の技能工は稼ぎを減らさないために休みの時には他の現場に入り働くと聞く。もしそうなら技能工はいつまで経っても週休2日にならない。元請に対する考え方になっていて、下請がどのように動くかという視点が足りていないと思う。
- ・ゼネコンの下請に入ると労務単価はその7割かそれ以下しかもらえない。これでは週休2日制になると職人は食べていけない。下請に対し適正な支払いをするよう行政側も手立てを考えて欲しい。
- ・社会保険の未加入対策を7年前からやってきて2年前に一旦終わったが、去年の国交省の調査結果でも、全額もらえたのは5割未満という結果が出ていた。特にひどいのは民間で2割未満ということなので、単価だけでなく法定福利費もまだまだもらえていないのが実態かと思う。北海道でも地方の小さなゼネコンにその話をすると、法定福利費を含む標準見積書について理解していないところがまだまだある。
- ・検討部会には分離発注で元請の方が呼ばれていると思うが、建築は二十数種の下請があるので、やはり下請の視点も加味してもらわないと建築は成り立たないと思う。
- ・職人がいないと建築が成り立たないため、下請けの視点を入れて欲しい。建具工事は他の業種より危機感が強く、一番存続が危ぶまれている業種だと思うが、そのことも市の方にも共有していただきたい。

###### <技能労働者の視点の必要性について>

- ・担い手対策について、技術者にクローズアップされがちかと思うが、技能労働者の確保への具体的なアプローチも検討委員会、部会から出されれば非常に有意義なものになると思う。
- ・週休2日の問題は技術者より技能労働者の問題だと思う。この施策を見ると週休2日の技能労働者の問題点が見えないのが気になった。

###### <中小企業の視点について>

- ・建築関係の事務所のうち札幌市内の8割弱が、建築士1人もしくは2人以下の事務所である。1人2人事務所は経営者＝従業員で、時短や休日確保の取組を進めるという目線にはなっていないため、そういう視点でいろいろ考えていただければと思う。

#### <交通誘導警備業界の参画について>

- ・第2号警備業務の交通誘導警備員が、道路工事関係で非常に不足している。ガードマンがいなくては舗装仕事ができないので、交通誘導警備の業界の方もこの会議に参画できたらいいと思う。  
→ガードマンの確保は工事实施に非常に大きな影響を与えていると認識している。警備業協会のみならず年1回意見交換を行い、担い手不足の悩みを伺っている。このプランに反映できることは考えて参りたい。

#### <事業量の確保について>

- ・各施策を取り組んでいくにあたり、中長期的な事業量の確保が前提になると考えている。本プランに中長期的な事業量の見通しを盛り込んでいただければ、各団体・企業も担い手対策をはじめとする取組に取り組んでいけるのではないかと考えている。
- ・人材不足が一番の問題であるが、中長期の安定した事業費の確保の見通しがある中では職員も確保していけるので、事業費の確保が一番目の要望である。
- ・みなさん必死に業界に人を呼び入れているが、継続的な予算の確保が全てだと思う。採用した人たちを数年後にリストラしなければならないのでは困る。現実に数年前はみんなリストラしてしまってこういう状況なので、その辺も考えていただきたいと思う。

#### <歩掛の見直しについて>

- ・積算に関して、昔と比べて機械の性能は向上し、施工の精度が上がってきている。ここ30年間の水道の管工事においては、機械の性能向上に応じて1日に40mなどの作業量が決められ歩掛に反映されているが、機械の値段は高くなっているため、歩掛が同じではやっていけない状況である。
- ・働き方改革で時短の中で、周りのクレームも多く、朝の9時から夜の5時までの短い時間の中での作業を強いられるため、昼食を取りながらやることで、何とか一日の工事量をこなしているのが現状である。機械の性能向上や、技術継承による技術力があるから補うことができているが、機械も人件費も高いため、歩掛を札幌市独自でも変えていただければと思う。
- ・取組目標5の「適正な利潤の確保に向けた経費率や補正の設定」に、(開発局や北海道の見直しに追従)と書かれている。札幌市は200万人の政令指定都市で、ある意味で道と対等なはずだから、市独自の予算のつけ方、歩掛の検討をぜひやっていただきたい。地元中小企業相手なので、工事請負契約に関する市内企業への優先発注も、十分考えていただきたい。

#### <入札制度の改善について>

- ・他都市では実施していると思う95%の最低落札率の実現。できるのであれば100%。そこから担い手確保や残業規制などが始まるのかと思っている。

- ・くじ引きのように運を天に任せるような受注形態では、受注の可能性が高いところに職員を配置することになるため、仕事がとれないとなると、ほかの機関の発注業務に回るという現実もある。今のくじ引きによる入札制度の改善についての取組はぜひともお願いしたい。
- ・設計のコンサルタント関係の当協会では、一般競争によるくじ引きの撤廃をお願いしている。一般競争における入札の7割がくじ引き、そのうち90数%が最低制限によるくじ引きということで、利潤の確保等に大きな問題があり、再度の下請に対する環境にも大きく関わっている。
- ・中小コンサルタントも多い当協会では、総合評価方式の要望については半数以上が導入に賛成だが、2割ぐらいは技術力の競争はシビアだから今のままでもいいという意見もあり、多様な入札制度を求めている。
- ・札幌市から分離発注いただいているのは業界の維持に大変貢献いただいている。そういう面も考慮して今後分離発注を考えていただければと思う。
- ・夢物語かもしれないが、施工と施工管理の分離発注をすれば元請のみが多く利益を得ることはないのかと思っている。

#### <発注の平準化について>

- ・北海道特有だと思うが、工事・業務の発注に3月末越えがない。本州は1月発注して6月工期が普通にあるので、同じようにできないか。

#### <建設産業のPRについて>

- ・インターンシップは非常に重要で、業界、企業を体験した生徒や学生に対して自分の進路を考えるように促すことができる。
- ・二十数年、小学校の測量体験学習会を実施している。札幌市教育委員会との連携もお願いしたい。
- ・建設産業のPR事業に関して、各企業、各協会で行き届いた現場見学会などは業界紙に取り上げられるのが精一杯な状況なので、一般紙にも取り上げられる、大規模かつインパクトのある取組を札幌市の協力を得て実現できればと思っている。
- ・高校1年生や2年生を対象に出前講座を行うと、そういう仕事があるのかとまず気づいてもらえて、興味を持ってもらっているのを実感している。毎年チカホで1月に開催している建設産業ふれあい展に出前講座をやった高校生がわざわざ見に来てくれるなど反応はいいと実感できている。
- ・協会の取組の1つとして、小学校5、6年生を対象としたお菓子の家づくりコンテストを毎年行っている。札幌洋菓子協会にお菓子で建物の材料を作ってもらって、一斉に家をつくってもらおう。今年で5回目になるけれども、非常に盛り上がっているいろいろな賞を作って出し、建築に興味を持っていただくという取組である。
- ・就職先選択に関して母親から子供への影響が強すぎるとその子は離職率が高いという話が出ており、母親へのPRも必要だが、そういう側面も考慮するといいと思う。
- ・業界の長時間労働のイメージがインターネットでも飛び交っていて、業界全体として苦慮している。

#### <担い手の確保・掘り起こしについて>

- ・担い手不足は深刻で、リタイアする人と入職者の差が非常に大きく、10年後には半数ぐらいの会社数になると予測している。
- ・技能職の入職に関して、商工会議所を通して自衛隊にまで採用活動に行くなどいろいろ動いているが、なかなか入職者がいないのが実態であり、本当に人が足りなくて困っている。
- ・ひきこもりの方々など、社会に出てこられない子らを積極的に建設業に誘導する方法を考える場が必要。
- ・市立大学で、建築工学を勉強する学科などを作っていただき、札幌市の将来を担う若い方を育てていただければいい。
- ・担い手の確保に向けて各社で考えながら努力しているが、なかなかうまくいっていないのが現状。作業員の確保も外国人労働者も含めて色々検討しながらやっていかなければならないと思っているが、現実がそこに至っていない。
- ・冬の除雪作業の実態として、オペレーターは70歳の年齢を過ぎて運転している人がかなりおり、5年間のプラン期間のうちにリタイアする人が技能者、技術者ともに多くなる。外国人労働者を頼らざるを得ない状況に陥っていると思う。

#### <女性活躍について>

- ・女性の採用について、北大、北海学園大などの理系の女性のほか、札幌市立大学のデザイン関係の学部の学生らを対象とする方法もあるのではないかと。  
→今後連携について協議していきたい。
- ・女性の活躍の場を非常に重要視しているように見受けられるが、女性の採用自体が目的となったり、女性の目線だけに議論がずれてしまったり、肝心の内容がないがしろにならないよう注意が必要。

#### <外国人労働者について>

- ・外国人労働者については、言葉の対応がなかなかできない中で雇用している。言葉を覚えれば、外国人労働者が地元に戻っても役立たせることができると思うので、仕事のない土曜日に言葉の教育を受けられる取組などを検討していただければいい。
- ・外国人においても電気工事の場合は資格が必要であるため、英語の資格試験はできないのかなど、制度も含めて議論しなければいけない状況である。外国人の採用もそう簡単ではないと思うが、電気工事の世界では何年か後には相当入れないと足りなくなるだろうという危機感を持っている。

#### <週休2日について>

- ・建築工事は塗装に限らず色々な職種があるので、一つビルを建てるとなると、基礎から始まり、鳶・土工・型枠大工・鉄筋工・左官工・配管設備・電気設備・機械設備・内装などあらゆる業種が関わる。その中で、塗装などの仕上げは最後の方になるので、前段の工種の遅れのしわ寄せがすべて来ることとなり、休日どころか夜間作業までして間に合わせるのが実態である。
- ・労働基準法などでは建設業は特例的に変形労働時間を採用して、年間で週40時間以内を達成

するということでやってきたと思う。部分的に週休 2 日に取り組むと年間の見方についてはかなり苦慮するところであり、その辺も考慮した中で行うことが必要。

- ・週休 2 日取ると、2 日働いて 1 日休みという状況（1 年の 1/3 は休み）になるかと思うが、まともにやるとうまくいくのか、賃金が減らずに食べていけるのかというのが実情だと思う。まずは夜間工事を減らす、土日の工事を止めていくことなども考えていただきたい。
- ・夏場は週休 2 日で残業もなくて働きやすいが、冬の 3 ヶ月弱は夜昼寝る暇もないとなると、若い人を募集しきれないため、夏冬イコールの働く環境を整えていただきたい。

#### <工事書類の簡素化などの働き方改革について>

- ・工事書類の簡素化や ASP については、発注者側も中身を分かっていない面があり、業者側は ASP に一人付きっきりになることもあるため、使えるのか研究していただきたい。
- ・ワンデーレスポンスについて、監督員だけでなく係長・課長も交えた取組をしているが、札幌市では担当監督員との関わりが少ないのかなと個人的な意見として持っている。よりよい発注者、業者の関係が作れればと思う。
- ・書類と写真の削減は、札幌市独自でできる取組であり、プランに明示する方法も考えていただければと思う。
- ・設計関係の事務所では残業しないと仕事が終わらないことが今非常に問題になっており、来年から労基が働き方改革でスポット的に抜き打ちに入るため、各企業が対応に悩んでいる。札幌市も、仕事がスムーズに行えるチェックの仕方にしていただければ働き方改革につながる。
- ・工事では現在は猶予期間中だが、5 年後に規制を守れずに罰則を受けると会社が存続できなくなる可能性がある。働く時間をいかに少なくして今の工事量をやり遂げるかを議論したい。
- ・設備関係の工事書類について、札幌市は厳しすぎるのではないかと感じるので、もう少し優しくしていただけたら採用や時間短縮に取り組めると感じている。

#### <i-Construction について>

- ・i-Construction について新しい技術も出揃っているため、受注者と同じく発注者の皆様にも一緒に勉強していただけると助かる。
- ・ICT の新技術として GPS で作業範囲を具現化する取組を今冬からやることになっているが、よりスピード感を持って予算を多く確保し優先的に実施していただきたい。

#### <建設キャリアアップシステムについて>

- ・建設キャリアアップシステムについては、初年度で 100 万人を入れる目標を達成できるのか疑問もある。カードリーダーが導入されている建築現場はほとんどないという現実を見ながら進めていただきたい。

#### <助成制度等について>

- ・各種助成、サポートの拡充、取組をしやすくするための敷居を低くする施策はありがたい。
- ・インターンシップ助成の条件緩和を進めていただけると助かる。
- ・協会では担い手育成に力を入れるため、4 年前に 1 年かけて PR ビデオを製作し、PR 冊子も

作った。それをもって3年前から高校に出前講座をやっている。ビデオの製作や出前講座の費用も厚労省や道の助成(約2/3)を受けて非常に助かっている。

- ・我々の業界は小さい会社が多く、会社独自で新入社員研修はできないので、協会でも2泊3日の研修をやるようになった。それも道の助成を受けている。参加者は毎年20名くらいで、会社に同年代はいないが、そこで同じ業界で働く同年代と仲良くなって、会社を越えた悩みなどを話しているようである。札幌市においても、対象を限定するものではなく、使い勝手のいい助成金制度を作っていたいただきたい。

#### <企業・団体の取組について>

- ・企業として実際に何をしていたらいいかを、これから問題視しなければならない。
- ・業界はこれから変化、進化が必要で、何をすべきか、多方面で考えていかなければならない時代が来ている。

#### <事業承継について>

- ・経営者の高齢化が相当進んでいることから、継承者がいなければ会社が成り立たない。この活性化プラン5年間のうちにそうした会社が成り立たない状況にどんどん陥っていくのではないかと危惧される。
- ・事業承継を諦めて人材育成しようと全く考えない人も出てきている。意欲がある人は若い人を入れて頑張ろうと思っているけれども、経営者が諦めつつある業界もあるということ考慮して欲しい。

#### <上位計画や関連計画との関連や整合性について>

- ・プラン全体の位置づけということで、この建設産業活性化プランは、札幌市の上位計画、関連計画とどのような関係があるのか。特に札幌市産業振興ビジョン等、札幌市における産業全体に対し建設産業がそれに含まれる中での位置づけと考えるので、全体にわたって整合性を図る必要があると思う。
- 上位計画の関係については、これから整合性をチェックしながら整理したい。

#### <プランの実効性について>

- ・目標があり、施策があるけれども、そのための予算措置や評価の有無、例えばKPI(=業績評価指標)などを設定するのか。今後、5年間で達成したのかしないのか、みんなでブラッシュアップするのかなど、具体的な進め方についても検討していけばいい。
- 業績評価指標については、先日の委員会でもできるだけ数値目標の設定が望ましいという意見があった。設定の可否はあるかと思うが、プラン策定後も設定に向けて検討していきたい。

#### <新担い手三法について>

- ・今年6月、入契法と建設業法とともに品確法の改正が行われ、その中で、調査設計も工事と同様に様々な規定に位置づけられる大きな変革があったので、そういうことをご理解の上、大きく前提として位置づけられるべきかと思う。

- ・基本目標 3 で「技術力の向上」が掲げられているが、その横の取組目標に技術力という言葉が一つもないことから、施策の 4-1 取組や実績などに技術力という言葉の一つ配していただければ、発注方式あるいは技術力による担い手の確保に通じる大きな位置づけになると思うので、ご検討をお願いします。

<その他>

- ・人口構造上、全産業で人が少なくなっているのので、各産業で人の取り合いをしているように思える。中長期的に見ると、結婚して子供を作るという世帯に対して自治体の方で厚い支援をすると変わるのではないか。
- ・我々の業界は大型の特殊車両を多く使うが、65、70 歳定年で高齢者が大型で事故を起こすと大変なことになる。高齢者の大型車両の適切な運転をサポートする運転免許場や学校のプランがないため困っている。

(6) 閉会

- ・みなさまからは、中長期的また継続的な予算の確保が必要だということ、下請や技能労働者の視点が大事だということ、PR において学校や教育との連携に関する事、子供に対する PR が大事であること、効率化の観点から書類の問題や職員のスムーズな対応に関する事、これ以外にも貴重な意見をたくさんいただいた。本日いただいた意見を元に今日の資料の修正、より具体的な検討を進めていきたい。
- ・今後は 9 月 9 日に委員会を行い、10 月に次の部会を予定している。

以上